



放送大学東京足立学習センター機関誌

葦立

あしだち

【発行日】2026年3月31日

葦立

【発行】放送大学東京足立学習センター
〒120-0034 東京都足立区千住5-13-5
学びピア21(6階)

TEL.03(5244)2760 FAX.03(5244)2762

【編集】葦立編集室



荒川リバーサイドビュー

Contents

- 退任の挨拶／現学習センター所長 最上善広 2P
- 就任の挨拶／新学習センター所長 新井由紀夫 3P
- 退任の挨拶／釜道紀浩 客員教授・永原恵三 客員教授 4P
- 就任の挨拶／寿楽浩太 客員教授・宮本泰則 客員教授 5P
- 事務室からのお知らせ 6P

学習センターのウェブサイトはこちら ▶▶▶▶▶

パソコン・スマートフォン・タブレットから見るができます。ぜひチェックしてみてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/adachi/>

放送大学東京足立学習センター

検索



- 学習センターを利用する際の注意
- 面接授業を受講する際の注意、追加登録について
- 客員教員ゼミ、公開講演会のお知らせ

※社会情勢により、今後、東京足立学習センターで行われる面接授業、行事等の中止・変更の可能性があります。またお知らせには、左記のような重要な内容がありますので、ウェブサイトをごまめにご確認ください。

東京足立学習センター現所長 退任の挨拶

所長退任にあたって



現放送大学東京足立学習センター所長

最上 善広



2023年4月に、猪崎前所長の移動に伴って、東京足立学習センターの所長に就任しました。

ちょうど放送大学創立40周年、足立学習センター開所30周年となる記念の年でした。

それ以前に、客員教員として2年間、主に実験室に出入りし、面接授業で使用する生物試料(ゾウリムシ)の培養やら、顕微鏡等の実験道具の整備をしてきたので、少しは様子がわかっていたものの、やはり知らないことの方がいっぱいでした。

当時はコロナ禍の終盤で、面接授業も人数制限を行い、実験授業は実験台の真ん中に仕切りのアクリル板を置いて感染対策をしていました。また、3密を避けるため、入学者の集いや学位記授与式も簡素化されていました。入学者の集いのあとの新入生を交えた茶話会や、サークル活動ができるようになるなんて遠い先の話のような状況でした。学習センターは学生間の交流の場でもあるので、今のようにその機能が回復されたのは嬉しい限りです。

面接授業の開講や、単位認定試験の実施、学生面談など、放送大学特有のイベントがあり、最初は戸惑いの連続だったのですが、同時に着任した山本事務長や、優秀な係長さんたちの協力の下、何とか業務をこなして来れたというのが実情です。

特任教授として、「細胞のダイナミクスを覗く」や「臨海生物リアル体験」などの実験系の授業を担当してきました。特に後者はお茶の水女子大学の実験施設に泊まり込んでの授業であり、特色のある授業取り組みということで、足立の機関誌「葦立」に記載された実施報告記事が放送大学のウェブマガジン(OAIR Web)

<https://webmagazine.ouj.ac.jp/tokyoadachi202305/>に転載されました。

東京足立学習センター学友同窓会の皆さんとも交流ができ、定例の講演会で卒業論文や修士論文を発表できるように、手助けができたこともいい思い出です。

昨年度来、学習センターの機能の見直しが進み、いくつかの学習センターと提携しながら実験授業の効率化をはかる計画が進んでいます。足立学習センターでは、生命科学系の授業を主に担当することになるでしょう。多分そのお手伝いのために、今後も度々学習センター(特に実験室周辺)に出没する予定です。もし見かけたらお声をかけて頂けたら幸いです。

東京足立学習センター新所長 就任の挨拶

過去の社会に生きたひとびとのあり方を理解する



新放送大学東京足立学習センター所長

新井 由紀夫



人間、生きていればかならず出くわすものが、きずなやしがらみといった、人と人とをとり結ぶ社会的な関係の問題です。ただしその具体的なあり方は、地域や時代、人の置かれた状況により、さまざまに異なった姿となってあらわれてきます。もし自分が、中世後期のイギリスに生きていて、家屋敷と所領をもつジェントリだったとしたら、どんなきずなとしがらみの関係のなかで暮らしていたのだろうか？そんな疑問が私の研究の原点です。例えば、

- ・結婚するときには、どんな条件が決め手になっているのだろうか…
- ・遠くの親類と、近くの友人と、どちらを大切にしていたのだろうか…
- ・いざというとき、頼れるような人をどのようにして見つけていたのか…
- ・宗教上の結びつきは、当時生きてゆく上で必要なものだったのだろうか…
- ・実力者とのおつきあいは、たとえやっかいでもどこまでしなければならないのか…

これらの答えを探して史料を調べてゆくうちに、彼らが生きていた中世ヨーロッパ社会の特徴が見えてくるのではないかと考えています。

現在は、15世紀イギリスの手紙史料を用いて、一通の手紙から何がわかり、また何がわからないのかを考えたり、手紙の書式からいえることを検討したりしています。メールや電話などがなかった時代に、手紙はあらゆるコミュニケーションの基本手段でした。私的な面だけでなく政治・行政に至るまですべてに手紙が意味を持っていました。当時、羊皮紙や紙は大変高価で貴重だったために、手紙は細かな字でびっしりと書かれ、あまった部分は切り取って再利用するなど、ちびちびと使われていたのですが、手紙の文面はといえば、時候の挨拶のような文章が多いときには手紙の半分を占めるものもありました。もったいないなあ、なんでながながと挨拶文を書くのだろう、はぶいてしまえばいいのにと疑問を持ったことがそもそもの始まりです。そのうちに、貴重な紙を使ってわざわざ長い挨拶文を書かなければいけないような理由が当時あったのではないかと、それを探ってみようと考えようになりました。

歴史学を通して、現代に生きる私たちとは全く異なった時代・地域の考え方や社会の仕組みを理解しようと努めることは、とても楽しいです。ぜひ一緒に考えてゆきましょう。

退任の挨拶

放送大学東京足立学習センター客員教授

釜道 紀浩

2021年4月から客員教授を務めさせて頂きました釜道紀浩です。5年間大変お世話になりました。学生の皆様、教職員の皆様に感謝申し上げます。



私は普段は東京足立学習センターからほど近い、北千住駅前にある東京電機大学で教育・研究に従事しております。専門はロボット工学です。5年前の就任のご挨拶の中でも「社会で活躍するロボット技術」について述べさせて頂きました。5年が経過して、ロボット技術の社会実装は加速しています。飲食店で活躍する配膳ロボットや商業施設で活躍する警備ロボット、家庭内で人の相手になってくれるコミュニケーションロボットなど、生活の中でも見かけることが増えていると思います。物流の人手不足の課題に対しても、物流倉庫の自動ロボットや配送ロボットの導入が進んでいます。自動運転車やドローンなども身近なものになっていると思います。ものづくりに関連する要素技術とそれらを統合するシステムインテグレーションの技術が融合し、コンピュータの性能向上やAI、ICTの進展と相まって、様々なロボット技術が生み出されている状況です。

放送大学では、面接授業として「生物に学ぶものづくり」を担当し、生物模倣技術や生物模倣ロボットについて講義をさせて頂きました。また、自主ゼミとして私自身の研究に関連して、人工筋肉とも呼ばれるソフトアクチュエータや、農業の自動化や省力化のためのスマート農業技術や農業ロボットのテーマについて講義や実習を実施させて頂きました。受講頂いた皆様の工学や科学技術への興味が少しでも深まる機会に繋がりましたら幸いです。

普段は、二十歳前後の学生を対象に講義をしていますが、放送大学では多様な年齢、経歴の方々を対象であり、少人数という点も違いがありました。放送大学の学生は、日々の仕事や生活と両立を図りつつ、個々の明確な目的をもって学びに向かっています。大学での学びは「学修」と表現されます。勉強して学問や知識、技能を身につけることで、主体的に学び修めるということで、能動的な学びが重要ということです。放送大学はまさにこの「学修」が体現されている環境であると思います。コロナ禍で不自由を感じつつも学習意欲を維持され、努力を継続された方々に敬意を表します。放送大学で学ばれた皆様が、それぞれの目的や目標に向けて学びを継続されることを願っております。

放送大学東京足立学習センター客員教授

永原 恵三

2026年3月で東京足立学習センター客員教授を退任いたします。私は2021年4月から本センターの客員教授として5年間務め、その前に2015年から2020年3月までは非常勤講師として5年間務



めました。所長はじめ教職員の皆さま、学生の皆さま、東京足立学友同窓会の皆さまなど、多くの方々との出会いに恵まれ、お世話になったこと、御礼申し上げます。

私の専門分野は音楽学ですが、学問と同時に音楽の実践にも携わり、声楽と合唱指揮もしております。当初は、2017年3月26日に東京藝術大学奏楽堂で開催された、放送大学南関東7学習センターによるベートーヴェン「第九」特別演奏会を目指して、「第九」に関する授業を担当しました。ベートーヴェン「第九」交響曲についての音楽学の講義と、実際に合唱の部分唱歌う実践授業を、面接授業として行ないました。「第九」の後の面接授業では、「キリスト教音楽入門」や「音楽と身体」などの音楽学に関する諸問題を扱いました。

年一回の自主ゼミでは拙著『合唱の思考 柴田南雄論の試み』や、Th.ゲオルギアードス『音楽と言語』などを扱いました。まず、前者では放送大学と繋がり深い作曲家である柴田南雄のシアター・ピースと呼ばれる作品群を中心に合唱の意味を考えました。そして、後者では、カトリック教会のミサ曲の歴史を通じて、西洋音楽における音楽と言語(言葉)との関係を、哲学的視座も含めて考察しました。

さらに、東京足立学友同窓会からのご依頼で講演会が開催されました。そのなかで「じゃんけん」を受講者の皆さまにさせていただいたことが印象深いです。「じゃんけん」の短い遊びのなかに音楽の様々な要素が入っていることを、皆さんと確かめました。年末の講演会では、クリスマスの聖歌をご一緒に歌いました。そして、学友同窓会の皆さまとの懇親会に参加しているうちに、いつのまにかその雰囲気溶け込んでしまったように思っています。

放送大学の面接授業は実に不思議な活力を持っていると思います。年齢も地域も興味関心も異なる人たちが、学ぶ意欲を全開にしてその時空間を共有しています。いつもこのエネルギーに圧倒されながら、でもそれに応えられるような知力と体力をもって授業に臨んだことは、私の大きな財産ですし、自らの今後の研究教育活動への底力になることを確信しています。

東京足立学習センターはその立地もあるのでしょうか、とても人間味に溢れる暖かさがあるように思います。今後もますます発展されることを願っております。

就任の挨拶

科学技術と社会の より良い関係のために

放送大学東京足立学習センター客員教授

寿楽 浩太

東京電機大学を本務としております寿楽と申します。私はこれまで、科学技術と社会の関係、とりわけ原子力技術の利用と社会の関係を考えてきました。



科学技術と社会の関係についての学術的な研究は、文理その他さまざまな垣根を超えた学際的な分野である「科学技術社会論」(STS: Science and Technology Studies)において、半世紀以上にわたって国際的に取り組まれてきました。哲学、倫理学、歴史学、社会学、人類学、法学、政治学、心理学、社会心理学などの人文・社会科学、そして自然科学の諸分野からも学術的な知見や方法を持ち寄って、科学技術と社会の関係を理解し、よりよいものとするための研究、さらにはそれらを実際に社会や政策に活かすための実践がさかんに行われています。

今日では、科学技術に関する多くの課題について、官僚や専門家、政治家などだけで決めるのではなく、一般の人びとの意見を聞き、関係する地域や業界、分野などの意思も尊重して社会全体としての方針を決めるという流れが一般化しています。そうしたものごとの決め方も、STS分野で研究・開発された具体的な手法を社会が取り入れてきた面があります。

AI(人工知能)のめざましい発展と普及、脱炭素社会への移行の取り組み、再生医療などの全く新たな医療技術の登場など、新たな科学技術にはますます大きな期待が寄せられています。他方で、そうしたテンポの速い動きの中で、私たちに不利益を生じる具体的な問題が生じる場面も少なくありません。STSの視点や知見はさらに重要性を増しています。各国政府や世界中の専門家も、新興科学技術が生み出す課題への対処の取り組みを強めています。

放送大学では本当にたくさんの分野の科目が開講されており、そのバリエーションや内容の充実ぶりは他の大学がなかなか真似のできない最大の強みだと思います。STSの視点から見ると、それらのほとんどすべてが科学技術と社会の関係について深く考え、よりよい方向性を目指すことに役立ちます。私がこれまで東京足立学習センターで担当してきた面接授業科目では、「科学技術の失敗」を切り口に、受講者の皆さんと科学技術と社会、さらには科学技術と人間の関係を考えてきました。

東京足立学習センターも本務校も、歴史と先進性が同居する北千住に所在しています。活気あふれるこのまちで、ぜひ皆さんとともに科学技術と社会の関係について一緒に考えていけたらと思っています。

就任の挨拶

細胞で繋がる 生物の歴史と私たちの体

放送大学東京足立学習センター客員教授

宮本 泰則

本年4月より、放送大学東京足立学習センターに客員教授として着任いたしました宮本泰則と申します。私は2026年3月までの31年間、お茶の水女子大学理学部生物学科において、教員として



教育と研究の研鑽を積んでまいりました。実験動物であるマウスを用い、脳の形成や損傷の修復、さらには脳の老化といったテーマを追究してきました。また、教育として、動物の体内で細胞がどのような「はたらき」をし、生命を維持しているのかについて大学生たちに講義をしてまいりました。

さて、現代という変化の激しい時代において、私たちが「生物学」を学び、理解する意味はどこにあるのでしょうか。私は大きく二つの視点があると考えています。

一つ目は、地球の歴史の中で、私たち生物は共通の起源をもつ「仲間」です。地球が誕生して46億年、生物は少なくとも35億年前には存在していました。この長い歳月の間、生物と地球環境は互いに影響を及ぼし合いながら歩んできました。例えば、私たちが現代社会の基盤として利用している石油や石炭などの「化石燃料」は、数億年前に生きていた生物たちの遺骸が形を変えたものです。現在、地球温暖化や二酸化炭素排出削減が喫緊の課題となっていますが、これらの環境問題を真に理解し、解決の糸口を探るためには、生物と地球環境が築いてきた長い共生の歴史を知ることが不可欠です。

二つ目の視点は、私たち自身の体がどのような精緻なしくみで動いているのかを理解し、より良く生きるための知恵を得ることです。現代の超高齢社会において、誰もが切望するのは「健康で充実した人生(ウェルビーイング)」を送ることでしょう。そのためには、自分の体の最小単位である「細胞」について知ることが第一歩となります。私たちの体は、平均して約37兆2千億個もの膨大な数の細胞で構成されています。これらは元を辿れば、たった一個の「受精卵」から始まります。細胞分裂を繰り返し、様々な役割を持つ細胞へと「分化」し、さらにそれらが空間的に接着し、複雑なネットワークを構築することで、私たちの個体が形作られます。

細胞は単なる構成部品ではありません。その内部ではDNAに代表される核酸やタンパク質などがダイナミックに活動し、一刻の休みもなく複雑な化学反応を続けています。この細胞同士の絶妙な関わり合いこそが、私たちの健康の根幹です。放送大学での学びを通じて、皆さんと共に実際に細胞を観察したり、生物のしくみについて語り合ったりできることを、心より楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務室からのお知らせ

【総務関連】

● 開所日・閉所日(窓口・電話)について

東京足立学習センター
ウェブサイト



時期	開所日	閉所日	事務室窓口・電話受付
4-6月 10-12月	水曜日～日曜日	毎週月曜・火曜 祝日	9:30～17:30 ※12:00～13:00は窓口閉室します。 電話もつながりません。 ご注意ください。
7-9月 1-3月	火曜日～土曜日	毎週日曜・月曜 祝日	

【注意】月によって開所日が異なりますのでご注意ください。また年末年始、臨時閉所日があります。電話やホームページ等で確認してください。
スケジュールは変更することもありますので、随時センターホームページで確認してください。

● 学生証の交付・更新について

図書室・視聴学習室の利用の際には学生証が必要です。学生証は入学日以降に窓口での受け取り、または、郵送での受け取りができます。※状況により変更することがありますので、当センターHPをご確認ください。

窓口での受け取り

入学許可書または、有効期限切れの学生証をお持ちください。

郵送での受け取り

任意様式に氏名、学生番号、電話番号を記入の上、下記(3点)を同封して、東京足立学習センター宛てに郵送してください。

- 入学許可書のコピーまたは、有効期限切れの学生証
- 身分証明書のコピー(顔写真付きのもの) ※有効期限切れの学生証同封の場合は不要
- 返信用封筒(宛先を明記の上、320円分の切手を貼付)

● 各種手続きについて

各種手続きについては、「学生生活の栞」をお読みにになり、それぞれ期限内に行ってください。「学生生活の栞」巻末に諸様式があり、手続き方法も記載されています。
また各種届出・申請様式は、システムWAKABAからダウンロードできます。
学生各自でWAKABAから手続きできるもの、本部で手続きするもの、学習センター窓口で手続きするものなど申請先が異なります。

システム
WAKABA



システムWAKABAから出来る主な申請	所属学習センター変更、氏名・住所変更、 休復学等願 等
学習センターを通して手続きする主な申請	学生証発行、各種証明書発行、学割証発行 等

※ 証明書の交付手続きについて

学力に関する証明書など、申請から発行まで2週間ほどかかるものがあります。各期限を確認して余裕を持って手続きして下さい。お急ぎの場合は、事前に所属する学習センターにご相談ください。

2026年度1学期より、 キャッシュレス決済を本格導入します

● 学習センターの窓口へお越しの場合(窓口決済)

窓口のキャッシュレス端末を操作します。



● ご自宅からのお支払いの場合(メール型決済)

SMBCマルチペイメントサービス(system@p01.smbc-gp.co.jp)からメールが届きます。

*決済手段はクレジットカード、電子マネー、コード決済が利用できます。

*面接授業、ライブWeb授業の追加登録の際は、授業料のほか1科目につき200円の手数料がかかります。

*事情により利用が難しい方は事務室へご相談ください。

【学生生活の栞】 冊子での配布がなくなります



これまで印刷教材等と一緒に送りしていた紙媒体は廃止となり、2026年度からは電子形式(PDF)のみとなります。

通信指導(択一式)の結果、 自習型問題の解答・解説の確認が原則webのみとなります

学習センター受験者、郵送提出の方以外は、紙媒体の郵送はなくなります。

「単位認定試験通知(受験票)」の郵送が原則廃止になります

「すべて自宅受験」の場合受験票は郵送いたしません。

学習センターで受験する科目がある場合は、引き続き受験票を郵送します。



